



# とびっくす No.68

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.jp/suigi/> )

## アカアマダイの種苗生産結果

### ～形態異常魚の割合 ほぼ0を達成！～

水産技術センター（内水面浅海部浅海科）では、県栽培漁業基本計画に基づいて平成 18 年度からアカアマダイの種苗生産技術開発に取り組んでいます。今年も9月24、25日の2日間、出雲市と共同で JF しまね及び平田支所管内の延縄や一本釣り漁業者の皆さま、および松江水産事務所の協力をいただいて親魚の確保を行い、得られた受精卵を用いて種苗生産を行いました。

そして、11月21日で種苗生産が一段落、配合飼料のみで飼育する中間育成段階に移行しましたので、これまでの結果について概要を報告します。



元気なアカアマダイを種苗生産できました！

#### 結果の概要

一昨年度の種苗生産では、高い形態異常率（75%）が問題でしたが、その要因として、水面の油膜が原因で仔魚が水面から空気を取り込むことができず、その結果うきぶくろの形成（開鰓（かいひょう））とといいます）が遅れ、形態異常になった可能性が高く、速やかに開鰓させられるかどうかは形態異常魚の出現率を下げる鍵になると考えられました。

昨年度は仔魚が空気を確実に取り込んで開鰓できるよう、油膜の元になるようなものをできるだけ用いないようにし、小さな仔魚がうまく空気を取り込めるような工夫をしましたが（詳しくはとびっくす No. 64（アカアマダイの種苗生産結果）を参照）、その結果、一昨年度の形態異常率 75% はもとより、全国的にみても最高水準といえる形態異常率 2.2%（全水槽の平均値）を達成しました。



形態異常を確認しながら1尾ずつ取りあげる様子

今年度の種苗生産では、昨年度の結果を検証するとともに、油膜を取り除く期間を昨年よりも短くしたり、仔稚魚の減耗や斃死要因を明らかにする目的の試験を行いました。

その結果、昨年と同様に7日目にはほぼすべての仔魚が開鰓、平均形態異常率が昨年度の2.2%を下回る0.6%と、ほぼ0といってもよい水準に達しました。生産尾数については、採卵数が少なかったことや生残率がやや低下したことにより昨年度の31,900尾から20,900尾とやや減少しましたが(図)、目標の1万尾は達成できました。

なお生産したアカアマダイ稚魚は、一部は出雲市に配付し、JFしまね平田支所で中間育成されるとともに、本年度はアマダイの本場でもある同支所の佐香出張所でも試験的に中間育成された後、来年の3~4月には同管内で放流される予定です。また配布した残りの種苗は当センターで継続飼育を行い、出雲市を中心とした島根県の地先で放流する予定にしています。

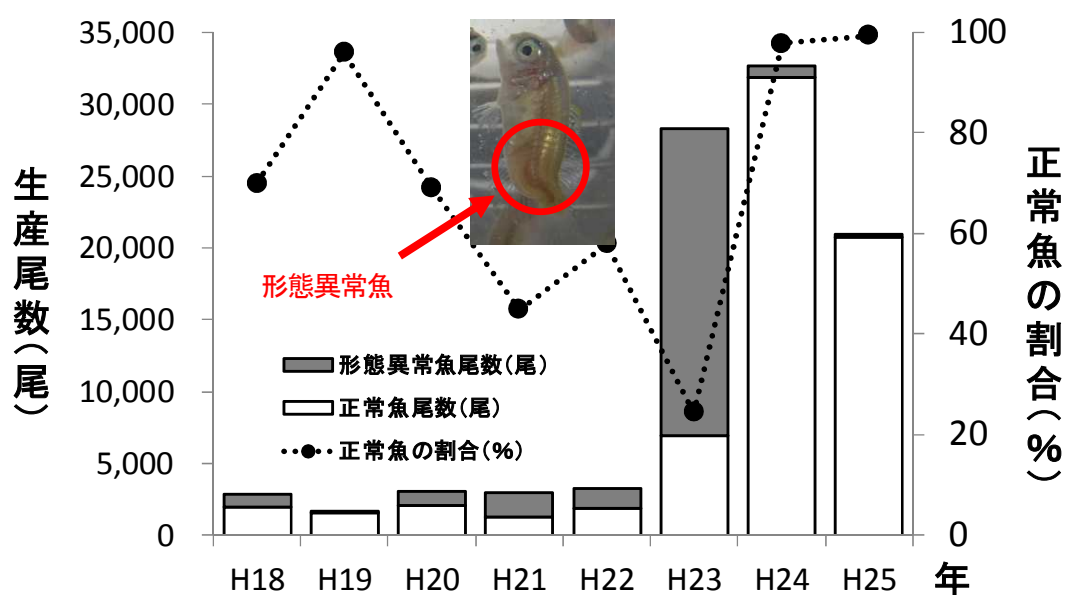


図 浅海科におけるアカアマダイ稚魚の生産尾数と正常魚の割合

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: [suigi@pref.shimane.lg.jp](mailto:suigi@pref.shimane.lg.jp)